


 ずいそう

トンネルワインカーヴ

土屋 和 生



勝沼ぶどうの丘は一面に広がるぶどう畑の小高い丘のてっぺんにあります。季節ごとに彩りを変えるぶどう畑の景色にしっくりとなじみ、甲州市のシンボルともいえる観光施設です。

そのぶどうの丘が管理運営するトンネルワインカーヴは廃トンネルを利用したワインの貯蔵庫です。いまから100年以上前の明治36年に建造され、鉄道文化の遺産としても貴重なレンガ積みのトンネル(1,100m)としてそのままの姿をとどめているJR旧深沢トンネルをワインの健全な長期熟成及び付加価値を高める施設として整備しました。

旧深沢トンネルは甲州市内の甲斐大和駅―勝沼ぶどう郷駅間にあり、平成9年に中央線の路線変更で閉鎖されるまで勝沼にとって大きな役割を果たしてくれました。明治36年開通後は、特にぶどうとワインの輸送に大きな影響を与え、地域に流通革命をもたらしました。ぶどうの出荷は東京まで、馬の背ののせ3日から6日かかっていたものが、わずか半日で大量に運ぶことができるようになりました。ワインやボトル、樽の輸送についてもさまざまな課題が一挙に解決されました。その後鉄道を使って観光団を誘致するなど観光事業への先駆的な取り組みも始められました。このように鉄道が勝沼地域にもたらした産業経済、生活文化への影響は計り知れないものがありました。

その旧深沢トンネルをワインの貯蔵庫として再利用したきっかけは、国の登録有形文化財に指定されている龍憲セラー(明治31年頃、勝沼で初めてワイン醸造を行った一人土屋龍憲が、フランスで学んだワインの熟成施設を中央線の隧道建設技術とレンガを用い建設した半地下式のワイン貯蔵庫)がヒントとなり、先人の夢を引き継ぐ形でトンネルがワインカーヴとして再生されました。

トンネルワインカーヴ内は約100万本のワインの収容能力があり、年間温度6度～14度、湿度45%～65%とワインの熟成には最適な環境となっています。

レストラン等商業者及び個人用のラックは322ユニットが整備され、1ユニットに720ml換算で300本が収納可能となり、保管料は月額2,500円(税込)です。個人用ユニットの奥には大型ユニットもあり、1区画3,000本を貯蔵でき、醸造メーカーのワイン蔵地場として活用され、地域産業にも大きく貢献をしております。現在、個人用のユニット及び大型ユニットはすべて契約済みであり、お客様からも熟成によりワインが美味しくなったという声が多数寄せられております。

トンネルワインカーヴの工事は平成16年の4月からはじまりましたが、トンネルワインカーヴ内は緩やかな傾斜となっていたため、既製品のワインラックが使用できず、水平なワインの保管ができるラックを用意し、また内部の幅が狭かったため通常のフォークリフトだと回転できず、ツメの部分が90度回転するフォークリフトを特注し使用しております。操作はオートガイダンスとなっており、地面コンクリート内部の誘導線に従ってスムーズな運搬が可能となっております。トンネルワインカーヴ内は当時のままの面影を残しつつ新たな用途として生まれ変わることができました。

勝沼はぶどうづくり1,300年、ワインづくり130年の歴史を持ち、この歴史はそのまま日本を代表するぶどうとワインの歴史でもあり、そのなかでも江戸期から明治期に造られた貴重な建造物が数多く残されています。勝沼には近代産業遺産として明治期に建造されたワインセラーやワイン醸造場、石積みのおぶどう冷蔵庫、ぶどう畑を洪水からまもった砂防堰堤、レンガ積みのトンネルなど多くの遺産が保存され、近代産業遺産の分野でも高い評価と注目を集めています。今後トンネルをはじめとする多くの近代産業遺産を活かした地域の活性化を進め、『ぶどう』『ワイン』『観光』に、『近代産業遺産』を加え、より文化的で集客性の高い観光地を目指していきます。



トンネルカーヴ



トンネルカーヴ ラック



トンネルカーヴ 正面